

人の一生を要する荷物を遠くへ行くに急ぐからす可

た。他の教唆、煽動に依つてを討つ如き
卑怯未練な者では無いぞ。我は蕨遠周
防をも怨むし所の事情は汝も我れ知る。
人も又能く知る所ならん。我れ父の遺
訓に背き怨むべきぞ怨まず。只管文武
を所す建州の家名を興えんと思ひし素
願。圖らず主君の知ろし汝に給ひ、再
正の御内儀を下りし。汝の父の聞防
を怨む又た廢科を弄し、君の明を蔽ふ
の咎は又得てあるやうサア斬れゝ

の差別は又得てあるやうサア斬れゝ
氣短又當るべからずと睨みつけ
た。三ツ丸めわける小娘と云ふだけ
に。罰れぬ我父を害し身分をも顧み
ず我に對して、惡口難言不届、至極の白
き。遂に此者を掛間に掛けて憎くき
傍の者に取出し、汝の者に付ける
の根柢ひてやれと。傍の者に取出し
、拵へ掛て置た寶道具を取出し、
座らせて背を

に得る所有り銳意改良に力めつゝ
河上常郎は皆て大邱財務監督局

●鴨緑江(二) ●歴史的鴨緑江と戦ふに先づ「吾人」して暫く高地を離れしむ。本江の源は半島の最高地、白頭山より發する、山の一箇水は實に白頭江と豆満江の搖籃なり。湖中の水、東せんと欲するは豆すんばめりせずや大感せん。

●材木作業者外にして輸出は大豆、米、油類、亜麻など輸入品は綿布、石油、豆滿二江の流域一帶の其特徵を發揮するが故に、地勢亦等しく兩江は父(發汗)母(同江)と稱し又母を等しする兄弟、

して令名あり、彼の夫人才色兩全欠いて大師の交際界の女王たりき、今尙然るべしと信ず、河上は賢性羅殿に於て事務に委し、惜むらゝに器宇大ならず事起るとも前途春秋に富む、勉めて得ざらん、宛然身の借山猿腹の中に在る想がた、餘ものなつかしさに二三棒を垣へ取りて持歸つた、三時四十五分解散府庭清涼里驛より電車の御世話に預る大門を入りて自分の車庫に歸着しこ

(終)

文虎

往古から愛臣難臣のなみのと名將と云へますが、漢朝は北狄の好に用ゐる、織田信長は藤原元を愛した、此云元例がいくらは有りませう、何う此愛臣難臣の爲には目の晦し者で、遷改宗候位の方でも千慮一失なきにあらざで、政宗公生涯の過失で、又も天下の法度と云ふ事を御失念に大手先の事、最と説くべき佳辰に大馬馬先に家の輪郭寶篋の重鎮にある者、附て血沙を以て汚す惜い如、主水の

廣



心と下つ敵し伊も外孫持

臣としては忠に止り子としては孝に止
込じ、素顔でも勇者でも叶はない、持
る、父の遺訓に基き不倶知天の復讐を
の如くに疲れると赦して又牢へ入れらる

なりと云ふも不可らず。
◎本江流幅約四百四十里、河床の勾配急に
して且岩嶺多く又水量比較的多からざるに
被流奔瀉の衝所からず、故に航
運河としての價値大なるは惜むべ
し、支流を呑む事十七、人ならば置斗
酒角足らざる大酒量なるべし、其本江
の蘆川、長江、渾河、然して登河。
◎航運河として價値少なしと雖、亦輕
々看過すべからず、河口より溯る十五
哩、安東縣より上流は二百石積の帆船
以て楚山、まは航行し得べく、河口
より百十餘里なる船子山まで十五六
石積の小船を溯らしむるを得。
◎然かくして本江に依る物資の運送が幾
千の時を要するや、是を知る必らず
しに無用にあらざるべし。
地名 距離 上航 下航
龍州 岩 九 里 二時乃至 十時乃至
時 時
は山河、越々深き史上の回想に歸り、江

中、幽や無念であらうと、直様主水、
歎願を取上げられ引渡された、
それは際限のない事でございます、
庭主水は君命に依て町奉行室川又右
門より庄八を、最と嚴重なる藥物に
れて受取る、廣瀬川の屋敷へ停て
る、處前の寢の方へ兎門の租料
ある、其傍の寢の果の五十角と、
位づゝ隔てゝ、根元深く大地に打込
高さ七尺餘り、廣さは三尺四方位の
宇を持ち上へ下へは完膚を敷いた
り家根はふかき、雨降に打たれた方
其處へ庄八を入れて、側に番人を附け
容易に破牢なんぞの出来ぬやみに料
まして、其上食事と云へば朝夕を差
まして、其に養生と云へば、實に養生

外 事 一 東

昌城間 十九里 五日乃至 一日乃至
 朝達間 三十二里 三日乃至 一日乃至
 楚山間 四十四里 七日乃至 三日
 楚化間 六十里 七日乃至 十四日
 山口間 六十數里 四十六日乃至 十五日
 ◎本江を遙に出入る貨物中最も著なるは材木なり、吾人は是に對して顧たざる所を改めて記さんとす希望と有するを以て茲に述べず、材木に次ぐは中北の主要物產たる柞置邊に意を注ぐ頗る熱心なるものあり、今夏矣

松 琴 生
 僕は最早酒食に要な身だ、本郷廣生も心無き技なめりて室に上らざる内樹木幽遠の樹所に相して石上膝を枕して休した、俯して深谷を觀れば巨岩磊落、清冽の水其間を流れ而して小魚の點々游泳し人に見え驚かざる有之、四邊を回顧すれば松樹の緑り涼間の萬木の黄葉を點綴し又爽々たる涼の萬木の黄葉を點綴し來る有り風の向處より紅葉を飛散し來る有り山の寺の幽寂をとして低徊する能はざらん

△南一 帶警戒嚴重也、清廷派兵軍
 △恐怖の色あり皇族悲劇ノ滿廷軍
 △失日文電報を檢閱し京漢鐵路旅を
 △革命の氣に對し米國新聞一般に價
 △保全を搖かかすを云り日本に注視
 △征討 司令官陸昌宸世凱、會見し
 △八日發 袁尚湖廣總督駁任を固辭し
 △四日 薩に官軍の提督あり今却て
 △亂匪猖獗 督民心を得ず大局危急の報
 △夙州 各新聞の對清論調皆して慷慨
 △也、此處の舉活は、革黨諸局指撝す
 △英、土及合併、意對伊テモス
 △占領せし土軍内訌あり、國帝訪事、

人水は近侍の者をも従へ、俄然と座を構へ、
左も俯くまゝ氣に見下し、主「コレ位は
庄八の仇、今度我父周郎を大手前にお
庄八の仇と名を假して害したるは、安
所恐らぬ御當家に對して除害を乞ふ
者の有、其者の運動を受け先第一に
父を害す。我家を潰さんと欲したる
や何し。我々と其同類本人を白擧
せろ」と口實を設けて取調べる、何
處か右の口實で拷問に掛けられ、幾
島「用心算するに掛て、庄八憤れる眼
の如く、庄八黙ハッ……我は一個の

加へず、汝父は老臣の權威を濫にな
し已れに阿り、我々は採用い、左あ
る者は是を採らぬ。我等黨の一合變つ
て討たれたるは君家の大奸を捕殺した
にも當る、我等罪を行へ、自訴致した
は大手下馬先を汚したる罪容見なら
ぬと云ふ、我々御家より引取り、然る
に汝製の敵ならずや、汝の如き非道
しは非義非道ならずや、汝の如き非
道の奴に物言ひも權なし、汝父を討た
れたる念、ならば汝に我善を教ねろ
と謀人稱と口實を設けて持間に掛け長
く困らしめんとは不仁の至なり。其位

られぬ有様、斯くの如くに一生
絶んと云ふので、慷慨悲憤の性男子
川庄八の命の危うき事風聞の儘も
川に有様で御座います。手詰まつて
の岩沼の徳兵衛は三月三日仙臺の城下
へ出た庄八が、手前下馬先で落膽
防が討取つた云々、手前下馬先で落膽
防から直ぐ耳にした。鶴「ハ、ハ、ハ」
旦那様御家再興の一件について手理
つては是非がない今に至ればこのお
うても是非がないに、直ぐ此國を去立退
に成つたさやん、今更仕方がない此上



機の身の上を安泰に同處へなり共立退
 かかるより外に道はない。この心で種々
 考へて待てど事もしや戻つて参りませ
 んから心配で堪へない。急遽仙臺の城
 下へ出向きました。

廣 告

中津物産卸商 定價表卸商
 蒲團各種 製綿 眞綿
 袋 まわた 箆筒 長持
 大分縣前中津古魚町
 衛生絲問屋 原田助市商店
 朝鮮大豆商

右三井物産株式會社京城出張所に一手
販賣を約し發賣せしむ

平壤鐵業所

平壤鐵業所にて其採掘に係る無煙炭と
原料として製造相成たる煉炭の一手法販
賣し弊社にて御下命相成に付ては多少
京城に於て御用命の程願上被

三井物産株式會社出張所

追て方の店に小賣取扱はしめ候間
宜御下命願上被

京城古市町(電話九四一番)

平壤鐵業所(電話五〇二番)

苦米地造酒壺

愈々鍋の好季節

此頃の寒さではドウしても鍋物でなければ済はなめません、それも第一座敷が温かくなければならぬ、つぎに座敷の間接灯なのが肝要だ密蔵の出来なれば暖な座敷でも仕方がありません、鍋と云つても千遍一律では無味味だに就いては材料豊富な料理屋でなければならぬ、器物の珍は又味を大に甘くするもので、此點に於いて最も完全

中村組出張所
 鎮南浦東五(電話一〇七番)
 中村組
 早酒有惠限

漆器道具机鏡臺御
大坂京町堀三番目
電話西門二三番

川井漆器店

來十一月

仁德京
秋季工

開合釜類一百五
替へ玉も新品と取り

時下秋冷相催候處御客様
大慶此事をに候降て弊亭
賀御引立を蒙り以御祭日
七週年に相當致候は偏
に長年にも相宜内見存

御覽なさい
旭町二丁目
鍋道樂
電話一四九番

みでんは京都に於ける
のみです決して手前、餘計でありませ
ん。爐と思召さば一度来て試めして
御覽なさい


診察時間 自午前九時
 至午後二時
 京城明治町三丁目
 醫學士 村土龍藏
 電話六三二番

會席 御料理

醫學士

耳鼻咽喉

開進亭
 電話九一番
 二伊藤應隆
 科專門
 京城日の出町(日の出橋際)
 電話三〇五番



-363-

1997年12月

DATE _____

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

猪飼胃散

金井 藥房

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

シブヘン

金井 藥房

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

唐川吳服店

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

確實屋の太田出

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

小林藤商店

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

御料理味噌

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

高杉油

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

健

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

米

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

直輸入新荷着

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

木材防腐劑

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

アイボリー

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

文房具

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

銃砲自轉車修理

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

中島醫院

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

米

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

丸腸固胃健

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

泉温るあ能効

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

旭屋旅館

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

増戸銃砲店

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

朝鮮仁川港

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

八景園

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

十月汽船出帆

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

荒川摩術療院

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

茶

代理店 東京南大門三丁目 電話九百四十六番 振替口座東京六十八番

東京流納豆大安賣